

令和 6 年度

学 校 評 価 結 果

郡山医師会 郡 山 看 護 専 門 学 校

【 看 護 学 科 】

【学校評価の実施概要】

(1) 評価項目 / 設問数 合 計 中項目 10 / 小項目 22 / 設問 47 ※災害時 49

【教育活動】 中項目 5 / 小項目 11 / 設問 24

- | | | |
|--------------------------------|------------------------|--|
| I 教育課程 (2/4) | 教育ビジョン
カリキュラム | ①教育理念・目的・目標 ②期待する卒業生像
③シラバス ④実習要綱 |
| II 教育指導・評価
(3/8) | 指導内容
指導体制
教育活動評価 | ⑤⑥学内授業/臨地実習内容・指導方法 ⑦授業準備
⑧インシデント対応 ⑨人権への配慮 ⑩学習支援
⑪教員評価 ⑫学生評価 |
| III 資格取得対策 及び 就職・進学支援
(2/3) | 国家試験・資格試験対策
就職・進学支援 | ⑬国家試験・資格試験対策
⑭就職支援 ⑮進学支援 |
| IV 教科外指導 (2/5) | 特別活動
生活・保健指導 | ⑯特別活動支援 ⑰自主活動支援
⑱生活指導 ⑲保健指導 ⑳学生相談 |
| V 人材育成 (2/4) | 研 修
自己研鑽 | ㉑研修受講促進 ㉒学びの共有
㉓自己スキル向上 ㉔学び支援 |

【管理運営】 中項目 5 / 小項目 11 / 設問 23 ※災害時 25設問

- | | | |
|-----------------|----------------------|---|
| VI 組織・人事 (2/6) | 管理体制
人事管理 | ㉕設置目的 ㉖組織管理 ㉗連携協力 ㉘あり方検討
㉙職員管理 ㉚職場教育 ㉛学生意見の反映 |
| VII 事業活動 (3/7) | 事業管理
学生支援
広報強化 | ㉜事業計画 ㉝学校評価・改善
㉞生活支援 ㉟学内環境
㊱周知広報 ㊲SNSの活用 |
| VIII 財務管理 (2/4) | 予算管理
財源確保 | ㊳予算編成・執行 ㊴会計処理・決算
㊵入学生の確保対策 ㊶財源確保対策 |
| IX 施設管理 (2/4) | 施設整備
管理活用 | ㊷設備整備 ※教材を除く ㊸環境整備
㊹日常管理・安全確保 ㊺施設活用 |
| X 危機管理 (1/2) | 体制確保
災害対応 | ㊻予防体制 ㊼防災対策
㊽現場対応 ㊾事後対応 |

(2) 評価方法 5段階評価 (5 良い / 4 やや良い / 3 普通 / 2 やや不十分 / 1 不十分)

※ただし、「分からない」の選択可

(3) 評価者 11名

管理職(教員)2名、看護学科教員6名、事務職員3名(事務長、学科担当)

※管理職2名(校長・副校長)のうち1名(副校長)は看護学科長を兼任

※事務職員は「管理運営」のみ評価(「教育評価」対象外)

看護学科においては、近年、入学生確保対策の一環として、県外を含む市外からの入学生を積極的に受け入れており、今年度における学生数は 定員80名に対し 73名 (4月9日現在)で 充足率 91.3%と高い水準を確保できたものの、入学生の確保という視点で見ると「令和7年度」の入学生は 20名、1、2年合計で 56名(充足率 70%) となることを踏まえ、今後においては、「教育課程」や「指導・評価」等による教育の質向上、「資格取得対策、就職・進学支援」や「教科外指導」さらに「学生生活支援事業」の充実など、あらゆる場面において学生を支える体制整備の充実が求められていると思う。

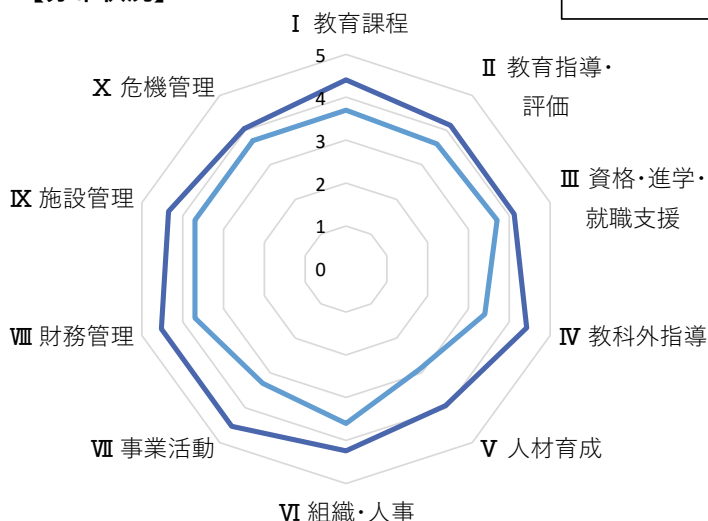
このような中において、看護師国家試験の合格率100%を達成したことは、教育活動はもちろんのこと学校全体として学生を支援する体制を整え、取り組んできた結果であると考えている。

《項目ごとの評価点》

項 目		R 6	R 5
教育活動	I 教育課程	4.4	3.7
	II 教育指導・評価	4.1	3.6
	III 資格・進学・就職支援	4.1	3.7
	IV 教科外指導	4.4	3.4
	V 人材育成	3.9	2.9
管理経営	VI 組織・人事	4.2	3.6
	VII 事業活動 ※学生生活支援含む	4.5	3.3
	VIII 財務管理	4.5	3.7
	IX 施設管理 ※教材を除く	4.3	3.7
	X 危機管理	4.0	3.7
平 均		4.3	3.5

※令和6年度から設問内容が一部変更になったため、令和5年度については参考値

【分布状況】



【教育活動】

I 教育課程

新カリキュラム（教育課程）が開始されて初めての卒業生を輩出した。

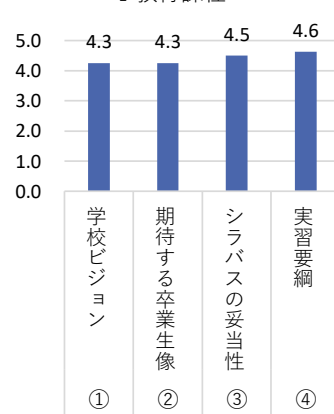
新カリキュラムに基づき、ディプロマシーを意識して学習指導にあたり、学生一人一人の力に合わせた内容や方法を学科全体で共有しながら取り組んだ。

なお、学習状況が芳しくなく単位未修得が予測される学生へは、個別の学習支援を検討するなど、今後は更に指導の実践を重ねた上で、それらの検証を行い、良い結果に繋げていきたい。

《主な意見》

- ・ カリキュラム改正にあたり教育目標を意識し、その後も常に念頭に入れている。
- ・ 学生の特性に合わせ学年目標が立案され、到達されるよう指導に努めている。
- ・ 全ての学生が到達しているわけではないが、多くは達している。
- ・ シラバスは、毎年度検討し修正している。

I 教育課程



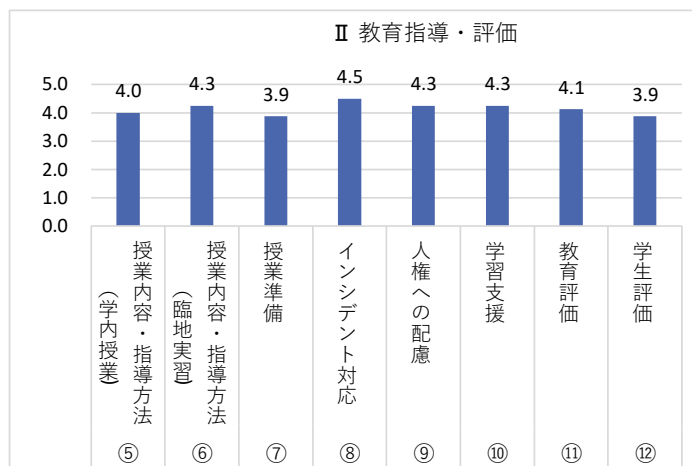
Ⅱ 教育指導・評価

指導や学習支援、各種対応にあたっては、教員それぞれがより良い指導方法を研究し適切に対応するとともに、学生及び外部講師アンケート(任意)等の結果に基づき、更なる改善に取り組んだ。

なお、今回出された意見については、学生・施設・教員それぞれの学習環境・指導環境が改善されるよう、組織全体で共有するとともに検討、対応していきたい。

《意見》

- ・指導にあたっては、教員一人一人が工夫している。
- ・概論や法制度など関心が持てない内容の講義は、もっと工夫をしなければならないと思う。
- ・実習指導者と連携を取りながら、目標の到達に向け関わることができている。
- ・臨地実習時は時間に変則になることが多いので、対応を検討する必要があるように思う。
- ・従来どおりの教材活用だけで、IT化への対応ができていない。
- ・インシデント対応については、適宜対応ができていると思う。
- ・学習支援については、個別対応ができています。(国試合格100%に繋がっている。)
- ・対応(学習指導)はしているが、休学、退学者が出ている。
- ・(教員評価のほか学生や外部講師(任意)の)アンケート結果に基づき、振り返りを行っている。



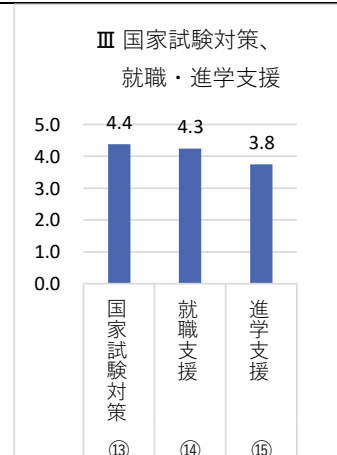
Ⅲ 資格取得対策 及び 就職・進学支援

看護師国家試験については卒業生 33名全員が合格となり、合格率 100% (2年課程 全国 91.2% / 福島県 91.7%) を達成した。これは専任教員 及び 国試対策を依頼した講師による手厚い資格試験対策、業者模試の活用その他、カリキュラム改正において国家試験に対応したシラバスや実習要綱としたことなどが要因と考えている。

また、卒業生全員 (33名) が「就職」(郡山市内 19名 / 県内 7名 / 県外 7名) することができたが、入学者の広域化に伴い、市外、県外への就職者が増加傾向にある。

《意見》

- ・臨地実習の課題等に時間が取られ、個々の学生に合った支援が難しくなっている。
- ・本人の希望に沿った適切なアドバイスを心掛けている。
- ・卒業生の約半数が郡山市外へ就職している。入学生の確保対策として市外からの志願者を受け入れている現状もあるが、市内に就職、定着してもらえる方策を考えていきたい。
- ・(本校は進学希望者が少なく進学支援) 担当はなく、相談を受けたときのみ対応している。



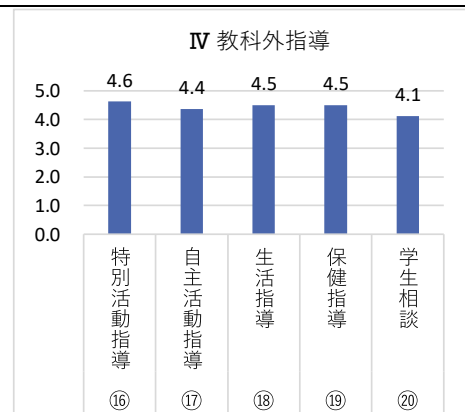
Ⅳ 教科外指導

コロナ禍後初となる学生主体の「学校祭～ミニ運動会・バレーボール大会」を開催し、学科・学年、学生、教職員の垣根を越えた交流と親睦を深めることで、新たな連携に繋げることができた。

また近年、精神面での不調や家庭環境など、学生生活に問題を抱える学生が増えているが、相談、個別面談、カウンセリング等により、心身両面から学生を支える体制を整えることができたと考えている。

《意見》

- ・学生それぞれの特性を引き出し伸ばしていけるよう教員相互が協力し合っている。
- ・学生個々の背景を理解しながらしている。
- ・学生の自主性を引き出すのは難しい。



V 人材育成

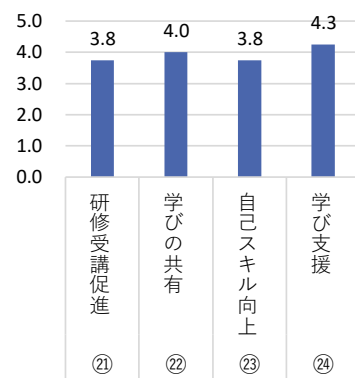
コロナ禍以降、研修等への参加は減少していたが、今年度においては「看護管理者認定講習ファーストクラス」へ教員を派遣するとともに、各種研修会等への参加促進を図り、それらを所属で共有した。

今後は、さらに自己研鑽のための取り組みを支援し、教育力向上のためのフィードバックを期待したい。

《意見》

- ・「認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修」へ教員1名を派遣した
- ・当初は消極的だったが、年度途中から促されるようになった。
- ・教務会議で学びの共有を行ってはいるが、そもそも研修を受ける人が少ない。
- ・スキルアップを勧められれば拒むことはないと思う。
- ・予算と時間の確保が難しい。

V 人材育成



【管理運営】

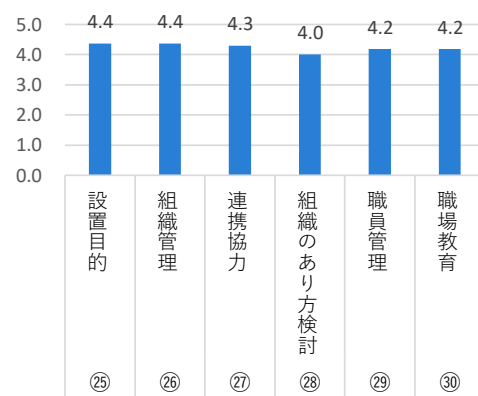
VI 組織・人事

郡山医師会立の看護学校として、設置目的に沿った学校運営に努めているが、社会ニーズの変化など組織のあり方を再検討する時期に来ていると感じている。

《意見》

- ・設置目的に基づき、多くの卒業生を輩出し地域に貢献できている。
- ・各所(医師会事務局/市医療介護病院)との関係性や社会ニーズの変化についてよく分からないので、勉強して即応できるように努めたい。
- ・臨地実習施設や講師派遣など、日頃から協力を得ることができている。
- ・(准看護学科から看護学科へ進学という)本校の体あり方は、現在の社会状況に合っていないように感じる。
- ・配置基準にあった人員配置ではあるが、業務量が多く全員多忙である。
- ・個人情報保護やハラスメント防止に向けては、職員自らの気づきを活かした注意喚起に取り組んでいる。

VI 組織・人事



VII 事業活動

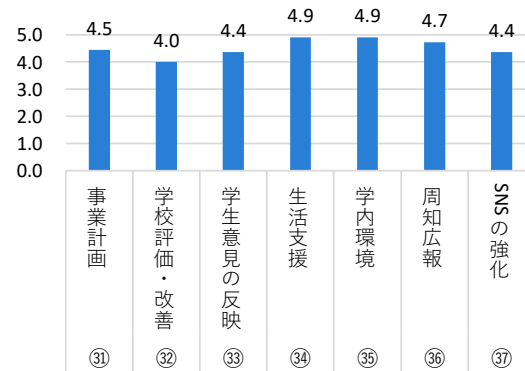
事業計画に基づき、学生支援事業(本校独自の奨学給付金、校内販売及びそれに対する助成、食料支援等)の拡充を図った。

また、今年度においては、学校改善に向け評価の見直しを行ったほか、入学生確保対策としてホームページの改編とともにLINE等を活用したSNS広報の強化に取り組んだ。

《意見》

- ・振り返りがしっかり行われ、次年度への計画に反映されている。
- ・次年度に向けた学校評価の見直しにより、評価の目的やあり方が理解されてきているように思う。
- ・学校評価の内容を、次年度の検討・改善に繋げている。
- ・学生の意見を聴くツールを設け、その内容を検討し採用又は対応を公表するなど、学内環境の改善に繋げている。
- ・職員、関係者、企業等の協力により、十分かつ細やかな支援(奨学給付金、校内販売、食料品配布等)ができている。
- ・物価が高騰する中で、「食料品の配布」は学生から「助かる」との声が多く出されていた。
- ・HP改編や公式LINEなど広報の抜本的な改善が図られ利便性が向上した。今後はSNS活用の拡大など更なる利活用を進めたい。

VII 事業活動

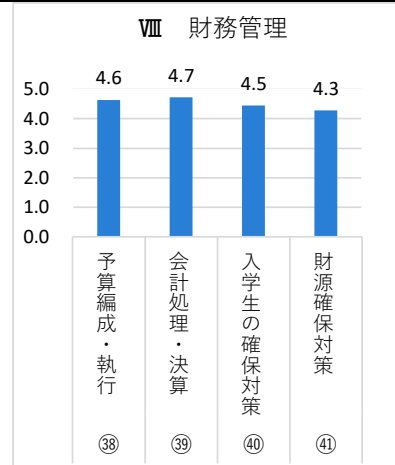


VIII 財務管理

予算・決算、会計処理等については適正に執行されており、特に問題は無いものの、医師会一般会計からの繰り入れ及び県運営費補助金等により収支のバランスが取れている現状を踏まえ、医師会員等への寄附募集を行うなど財源確保に取り組んでいる。今後における入学生の確保が鍵となる。

《意見》

- ・ 予算・決算管理(編成、執行、監査等)、会計処理等は正確かつ適正に行われている。
- ・ 予算の確保ができず更新できない設備がある。
- ・ 入学生の確保に向け、管外からの入学生の確保など十分取り組んでいると思う。ただ、少子化と看護教育の大学化には抗えない。
- ・ 高等教育新制度の活用や管外志願者の確保などに積極的に取り組んでいるが、実質的な入学生の確保(令和7年度)には繋がっていない。
- ・ (現在実施している)奨学生制度等の各種支援事業を、「学費生活のモデルプラン(案)」などで広報の前面に押し出し、志願者に訴える提案手法の検討など、入学生確保に向けた取り組みを拡大していきたい。
- ・ 入学生の確保や財源確保に向け、困難な社会情勢の中において、出来る限りの対策に取り組んでいると思う。
- ・ (入学生が減少する)厳しい状況の中、医師会との連携(繰り入れ)により、運営(財源確保)されている。



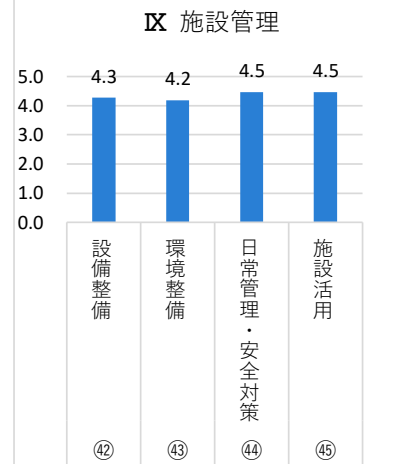
IX 施設管理

自主点検・法定点検等の適正実施により安全確保を図るとともに、職員による定期的な点検・確認を徹底している。また、校舎内清掃、敷地内美化など施設の適正な維持管理に努めている。

さらに、施設や設備を学生のほか、医師会員等関係者に無料で貸し出す施設活用を図っているが、これらを更に地域連携に繋げていけたらと考えている。

《意見》

- ・ 校舎の清掃、定期的な除草など環境整備は行き届いている。
- ・ 駐車場や倉庫などは整備できなかったもので、次年度においては計画的に実施したい。
- ・ 多くの来校者が感心されるので、施設管理はしっかりできていると思う。
- ・ 朝夕の点検により、日常の安全確認に努めている。
- ・ 各法定点検を適切に実施するとともに、校舎建設後10年余が経っていることから、適宜点検を行い、安全確保に努めた。
- ・ 関係者へ会議室や教材等を貸し出す施設活用を積極的に取り組んでいる。学校行事とともにこの施設活用の取り組みを、地域の方々との良好な関係構築に繋げていきたい。



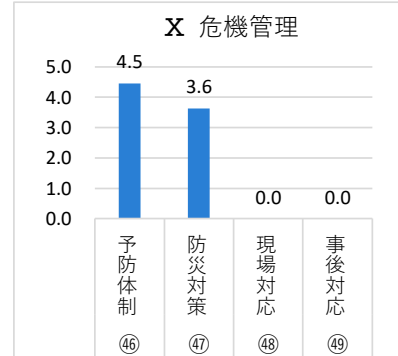
X 危機管理

「危機管理マニュアル」に基づき、災害や感染症等に対する予備知識や対応について組織全体で共有するとともに、備蓄品の整備や消防・防災訓練の実施などを計画的に行うことで、確実な防災対応ができる予防体制の構築に努めている。

なお、予定していた郡山市医療介護病院との合同防災訓練については、病院の都合により未実施となったが、今後においても郡山医師会立の看護学校として、地域連携に向けた取り組みを継続していきたい。

《意見》

- ・ 災害等に備え、連携に取り組んでいる。
- ・ 郡山市医療介護病院(郡山医師会指定管理)との合同防災訓練を計画していたが、病院訓練が中止となったことから実施が出来なかった。次年度は計画的に進めたい。



◆ 今 後 に 向 け て

新カリキュラム（教育課程）での初めての卒業生を送り出すこととなったことから、その内容の妥当性 及び教材や時間配分など具体的な指導方法等について、検証を行い、見直しを図る必要がある。

令和 5、6 年度における実績等を踏まえ、今後においては、あらゆる視点、様々な方向から検証を重ね、本校「看護学科」における看護教育のさらなる質の向上を図っていきたい。

（Ⅰ 教育課程 / Ⅱ 教育指導・評価 / Ⅲ 資格取得対策、進学・就職支援 / Ⅳ 教科外指導）

コロナ禍以降、取り組みが進んでいなかった学外研修や学会等への参加を促すとともに、個々の指導スキルの向上 及び それぞれの個性を活かした指導力の強化を図っていきたい。

さらに、次年度に向け、「学校評価」全体の見直しを検討するとともに、「業績評価」の導入についても検討を開始しており、今後における学校のあり方について具体的な方向性を提示していきたい。

（Ⅱ 教育指導・評価 / Ⅴ 人材育成）

全国的に「看護職」を目指す人が減少する中、本校並びに県内看護職養成施設においても「定員割」となっている現状を踏まえ、安定した学校運営に不可欠な「入学生の確保」に向け、指導体制など教育活動はもちろんのこと、今後における組織のあり方検討を含めた根本的な見直しが必要と考えている。

（Ⅱ 教育指導・評価 / Ⅵ 組織・人事 / Ⅶ 事業活動 / Ⅷ 財務管理）

急速に進むDX化やデジタル世代の学生に対応するため、今年度においては「ホームページ」のリニューアルを行うとともに、SNS等デジタル広告の強化に取り組んだ。

これにより、LINE、Instagram、Facebook等を活用した校舎3Dデジタルツアーの配信、ターゲティング広告、リスティング広告などを開始したが、一定の効果を得られたと考えている。

（Ⅶ 事業活動 / Ⅷ 財務管理）

郡山医師会員、郡山市医療介護病院、さらには臨地実習施設等と、より良い関係を構築することで、「看護教育」という分野のみならず、地域連携、防災等危機管理における本校の役割を果たしていきたい。

（Ⅵ 組織・人事 / Ⅸ 施設管理 / X 危機管理）

学校関係者評価

- 定員80名に対し、令和5年度においては67名（4.7現在）で充足率84%、令和6年度においては73名（4.9現在）で充足率は「91.3%」と、「学生数」については高い水準を保っているが、その反面、令和7年度の入学生については「20名」となっており、かなり厳しい状況である。

これは全国的な問題ではあるものの、学校運営に「入学生の確保」＝「財源確保」は必須であり、今後における「組織のあり方検討」を含め、最重要課題として取り組むこと。

- 「看護師国家試験」の合格率100%は素晴らしい。

ただし、それ以前の課題として、「学業について行けない学生の指導をどうするか？」がある。今年度において、休学者・退学者が6名いることに留意しなければならない。

今後は、「入学生の確保」という管理運営上の課題と、「学生の質の確保」という教育活動上の課題との組み合わせが求められることとなる。

それらへの対策をどう講じていくかについて、組織全体で考え、具体的な取り組みを進めること。

- 学生への支援事業も積極的に行われており、以前よりも校内が明るくなったように感じられるが、建物の老朽化対策については計画的に進めること。

また、ホームページも新しくなり、広報のデジタル化への対応についても特段に向上したが、これから何をどのように発信していくかが重要となるので、ここで終わりではなく、継続した情報発信に取り組むこと。